

令和3年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (7月23日・11月17日実施)	総合評価（3月11日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①単位制の利点をいかして、適切な教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組む。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びや探究活動が進むよう組織的な授業改善と研究開発に取り組む。</p>	<p>①単位制の仕組みを生かした履修指導を行う。1年後の新教育課程開始への円滑な移行を行う。</p> <p>②授業力向上推進重点校としての2年間の成果を踏まえ、アクティブ・ラーニングの授業展開のための組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>①選択科目説明会や生徒調査、学級担任との面談を適切な時期、方法で行う。また、指導計画の調整や対応、周知を行う。</p> <p>②外部講師を招いた研究会の実施。授業見学週間による技術や課題の共有。ICT利活用研修会の実施。</p>	<p>①生徒個々の志望や興味関心に即して科目履修することができ、教育課程の移行が円滑に行えたか。</p> <p>②授業改善の取組を通して、対話場面やアウトプットの機会が増え、授業評価の向上が確認できたか。</p>	<p>①個々の指導を通じて、生徒一人ひとりが将来を見据えての科目選択を行った。新教育課程の作成も円滑に行えた。</p> <p>②國學院大學教授の田村学氏を招き、「主体的・対話的・深い学び」についての研修を行った。</p> <p>③「深い学びを意識したアウトプットの工夫」というテーマで全職員が実験授業を行った。</p>	<p>①進路の方向性を途中で変更する生徒もいるため、それぞれに丁寧に対応する必要がある。</p> <p>②全職員が行った「実験授業」のレポートと生徒へのアンケートの結果を分析し、「深い学びを意識したアウトプット」について課題や有効性を確認し、授業改善を進める。</p>	<p>・オンライン授業への取り組みを評価する。ICTが教員の負担になりすぎないよう、地域の人材活用も可能ではないか。</p> <p>・学びたい科目を自ら選ぶからこそ、積極的に学んでいける。</p> <p>・教科を超えた学びや深い学びを意識したアウトプットに期待する。知識を知識として終わらせるのではなく他者との互いの刺激の中で学ぶことが定着につながる。</p>	<p>①卒業生に実施した科目選択についてのアンケートでは、希望進路に合わせた科目選択ができた、やっていたが合わせて89%であった。進路が途中で変わった場合でも、履修する方向で指導を行い、ほぼ全員が選択した科目を履修した。</p> <p>②「教科の範囲を超えた深い学びにつながるアクティブ・ラーニング」についての生徒アンケート結果は、肯定的評価が94%以上となった。「生徒による授業評価」「魅力と特色ある県立高校作りについてのアンケート」でも、授業力向上推進重点校としての3年間連続して評価が高くなっている。授業改善の取り組みは、一定の成果を上げることができた。</p>	<p>①新教育課程への移行に伴い、最後の旧課程の生徒が希望する科目をとれなくなる可能性もあるため、引き続き丁寧に対応をしていく。</p> <p>②授業力向上推進重点校の指定が外れる来年度も、本校の特色としているアクティブ・ラーニングの授業改善が継続して行えるような新しい方策を考えなければならない。</p> <p>③「生徒の深い学び」を育むためには、生徒を取り巻く環境、メディアなどにアンテナを張り、「生徒の日常生活」がどのようなものであるかを理解していく必要がある。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①部活動の充実を学校全体で支え、部活動を通じて豊かな人間性や社会性を培う。</p> <p>②組織的な生徒指導・支援体制を充実させ、生徒一人ひとりにきめ細かく対応する。</p>	<p>①1年次生の部活動加入率を向上させるとともに、部活動でのリーダーシップ実践を促進する。</p> <p>②組織的な生徒指導体制を継続し、安心安全な学校生活を確保するとともに、教育相談体制を充実させる。</p>	<p>①オリエンテーションや部活動見学を実施し、各部活動でリーダーシップ実践に取り組む。</p> <p>②登校・駐輪・頭髪・服装指導を計画的に実施する。また、教育相談会議を適時実施する</p>	<p>①加入率が増加したか、また部活動でのリーダーシップ発揮による成果が見られたか。</p> <p>②生徒の生活習慣が安定し、生徒指導案件が減少したか。教育相談会議により、問題解消を図ることができたか。</p>	<p>①部活動入部率は5月の段階で1・2・3年次全体で、運動部55.3%、文化部22.4%、全体で77.7%であった。</p> <p>②組織的な生徒指導を通じて生徒の生活習慣が安定し、生徒指導案件が減少した。教育相談会議により、問題解消を図ることができた。</p>	<p>①年度当初、1年次生には、部活動体験での入部を促したが、入部率は大きく向上しなかった。様々な機会を通して部活動の紹介を行い、入部率を上げる。</p> <p>②生徒の生活習慣が継続的に安定していくように、職員の共通理解と統一指導をさらに進め、充実した教育相談を展開していく。</p>	<p>・成果も大切と思いますが、何より部活動の活性化がさらに進むとよい。</p> <p>・部活動に入っていない生徒にも、何か学校への帰属意識が持てるようなアプローチがあるとよい。</p> <p>・昨年中止となったFesta清流が計画されていて良かった。</p>	<p>①来年度は年度当初の行事を通じて、部活動加入率85%を目指す。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症防止対策を進める中で、職員の協力・組織的な取り組みで対応することができた。生徒指導案件についても減少した。また、教育相談ケース会議により、問題解消を図ることができた。</p>	<p>①夏休み前の部活動紹介イベントで、もう一度加入促進を図る。</p> <p>②職員の共通理解と統一指導をさらに進め、生徒の生活習慣の安定や問題行動の未然防止に向けて取り組んでいくとともに、生徒一人ひとりにきめ細かく対応できる教育相談体制の充実を図っていく。</p>
3 進路指導・支援	<p>①キャリア教育を通じて自らの課題に前向きに取り組む生徒の育成を図る。</p> <p>②生徒の進路希望実現に向けてきめ細かな支援を組織的に行う。</p>	<p>①リーダーシップ教育推進チームの取組を継続し生徒の主体性を伸ばす。</p> <p>②入試方式や手続き等への理解を促して生徒の進路実現を図るとともにポートフォリオの活用を支援する</p>	<p>①授業、部活動、学校行事等あらゆる場面で「目標共有」「率先垂範」「相互支援」の三つを常に意識させ、自己のみならず他者のリーダーシップ開発にも取り組ませる。</p> <p>②説明会や指導を計</p>	<p>①生徒が協働して課題解決にあたり、相互のフィードバックによって行動を振り返りながら、他者のリーダーシップ開発が実践できたか。</p> <p>②志望した進路を実現して進学できた</p>	<p>①リーダーシップ科目においては相互フィードバックや振り返りが活発に行われ、他者のリーダーシップ開発が進められたが、部活動や学校行事では十分とは言えない。</p> <p>②進路指導計画・方針への理解・協力は</p>	<p>①授業ではすべての教科・科目で、また学校行事や部活動においても、生徒のリーダーシップ発揮が促進されるよう、教員研修を実施し、教員の意識啓発を行う。</p> <p>②学校推薦型選抜や総合型選抜に対する</p>	<p>・生徒自身という観点ではなく、他者との関係で主体性を育むという視点が素晴らしい。</p> <p>・リーダーシップ教育が授業や部活動で徐々に根付いていると感じる。生徒それぞれの性格を見つけていくことが</p>	<p>①リーダーシップの教員研修、1・2年次生対象の研修を実施し、学校全体でリーダーシップ活用のスキルを身に付けた。</p> <p>②学校推薦型選抜・総合型選抜について情報提供をするための動画を作成した。ポートフォリオにつ</p>	<p>①リーダーシップ教育を学校全体でさらに組織的に推進するため、教員の意識啓発を進めるとともに、次年度も生徒対象のリーダーシップ研修を企画したい。</p> <p>②大学等の選抜に関する情報提供は、資料提供も含め頻繁に</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (7月23日・11月17日実施)	総合評価(3月11日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
				画的に実施し、生徒・保護者への理解を図る。また、ポートフォリオ作成を支援する。	か。ポートフォリオの作成を支援できたか。	ほぼ得られていたが、一部安易に上級学校の入試を受けようとする生徒もおり、さらに丁寧な指導が求められる。ポートフォリオの基礎資料が不十分である生徒も少なくなく、十分な活用をするに至っていないのが現状である。	認識・理解を生徒・保護者に深めてもらうため、面談、ガイダンスのほか、資料や情報の提供の機会も増やしていく必要がある。ポートフォリオへの取組の推進については検討し、より効果的な活用方法について模索していく。	大切に思われる。	いては、高校時代の取組みについての記載が十分ではない生徒が多かった。今後は、進学・就職に向けてどのように取り組ませるべきか検討を重ねたい。	行いたい。また、生徒との個別の進路相談にも力を入れる。 ・ポートフォリオは、次年度入学生からはオンライン活用により随時記載が可能になるようにする。
4 地域等との協働	①地域との協働を推進し、地域とともにある学校づくりを進める。 ②地域貢献活動などを通じて、地域と連携した教育活動を推進する。	① 学校運営協議会により、本校教育活動について情報を発信し、地域の意見やニーズを学校運営に役立てる。 ② 地域貢献活動や地域イベントへの参加を推進する。	①学校運営協議会を通じて、本校教育活動への理解を得るとともに地域からの意見やニーズを把握する。 ②3校交流、地域貢献活動、地域イベントへの参加を行い地域と連携する。	①多くの評価や意見を得ることができたか。意見や評価の内容を学校運営に生かせるか。 ②関係機関と連携し、新しい生活様式に沿った形で地域貢献活動が実践できたか。	①学校運営協議会第1回は書面開催となったが、委員から意見を聴取することができた。 ②コロナ禍で実施できるものは、3校交流のヒマワリの植栽だけだった。	①第2回は対面式で行うなど、引き続き本校の教育活動について情報交換していく。 ②時期を見計らいながら、後半の予定を実施する。	1 対面による学校運営協議会は2年ぶりであり、皆さんにお会いできたことは価値が深い。 ・三校交流「ひまわりを育てよう」は三校のそれぞれの役割を果たして、天候にも恵まれすくすく成長している。地域の人たちも楽しみにしている。	①学校運営協議会を予定通り(書面開催を含む)3回実施し、本校の教育活動をご理解いただくとともに、委員から様々な意見を聴取することができた。 ②コロナ禍で地域貢献活動、3校交流の活動が制限され、本校の単独でのヒマワリの植栽のみとなった。来年度の事業を諸機関と連携し、実際に実行できる形態にする。	①新型コロナウイルスの感染状況の収束がなかなかみられない中、書面開催だけでなく、オンライン開催など新たな開催方法も模索していきたい。 ②3校交流の幹事校となるので、事業の内容の検討、実施を図る。	
5 学校管理 学校運営	①教育環境の整備に努め、安全、安心で明るい学校づくりを推進する。 ②事故・不祥事防止を徹底する。教員の働き方改革を推進し、前向きに働ける職場づくりに努める。	① 校内の衛生管理を徹底し、安全な教育環境を整える。 ② 事故・不祥事を防止し、教員のワークライフバランスを推進するために、働き方改革を推進する。	①巡回を定期的に行い、換気など衛生管理や生徒へのマスク着用や手指消毒などの衛生指導を行う。 ②事故・不祥事防止会議を実施する。夏季休業中に3日、冬季休業中に2日の閉庁日を設定する。	① 校内の衛生管理や衛生指導により感染を予防できたか。 ② 事故不祥事を防止できたか。また、職員が夏季休暇を消化したか。	①換気などの衛生管理や生徒へ衛生指導により、感染拡大を最小限におさえることができた。 ②各グループによる事故不祥事防止会議を実施した。夏季休業中に3日の閉庁日を実施した。	①校内にいる時だけでなく、登下校時での感染予防に努めるよう指導を徹底する。 ②職員86.2%の職員が夏季休暇を消化した。	・グラウンドの縮小等、安全・安心を確保しつつ学校目標の感染予防に努めるよう指導を徹底する。 ・職員の業務が多岐にわたると感じる一年でした。負担にならないように働いて行って欲しい。	①新型コロナウイルス感染症防止対策を進める中で校内の衛生管理や衛生指導を行い、感染予防に繋げることができた。 ②グループ等が主催する事故防止会議や不祥事防止職員への啓発や研修のいずれも計画通り実施した。閉庁日の5日設定、夏季休暇取得率80%以上の目標を達成できた。	①今後も継続して感染症防止対策を進め、校内の衛生管理の徹底を図り、安全な教育環境を整える。 ②事故・不祥事防止に向けた取り組みを不祥事ゼロプログラムに則って行っていく。次年度以降も閉庁日を5日以上設定するとともに、働き方改革を推進していく。	